

木造文殊菩薩騎獅像

新宮の文殊堂に安置されているこの文殊菩薩像は、大きな獅子に乗った全長二八五センチの像である。

宝髻^{ほうけい}の形や玉眼の入っていないこと、手指のせん細さなど藤原時代色もあるが、顔の男性的なしまり、膝の衣文の数と深さ、側面から見た厚さや背面の彫刻等から鎌倉時代初めの作と考えられている。



「新編会津風土記」に、建久三年（一一九二）社領が侵略にあつた際、熊野神社の長吏が鎌倉に訴えたのに対し、源頼朝から社領状とともに、小さな文殊像が贈られたが、この小像を現在の文殊像の軀内に納めたと言い伝えている。

所在地 慶徳町新宮字熊野 熊野神社
指定年月日 昭和三十九年三月二十四日